

体づくり運動における指導実態に関する検討 —愛知県内の公立小学校教員の意識調査より—

鈴木 一成

保健体育講座

The Study on Teaching for Physical Fitness in Physical Education: Using The Attitude Survey of Elementary School Teachers in Aichi

Kazunari SUZUKI

Department of Health and Physical Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

I. 緒言

小学校体育科における体づくり運動領域が誕生して四半世紀が経つ。1998年告示小学校学習指導要領（以下、指導要領）では高学年のみであったが、2008年告示指導要領では低学年からも位置付けられ、2017年告示指導要領では低学年の名称が「体ほぐしの運動遊び」へ変更された^{1) 2) 3)}。その特性は「心身関連型運動遊び」とされ、心と体の密接な関係を学力としている⁴⁾。また、高学年の「体力を高める運動」は「体の動きを高める運動」とされている。いずれも枠組みや内容に大きな変更はない⁵⁾。

2012年及び2013年学習指導要領実施状況調査（通過率80%が「相当数の児童ができている」、通過率60%未満が「課題がある」とされている）によれば、心と体の相互の影響を問う問題は「体から心への影響（体：体の調子が良い→心：集中できるなど）」の通過率が77.6%であったものの、「心から体への影響（心：不安や悩みがある→体：お腹が痛くなるなど）」の通過率は44.0%と低率であったことが報告されている⁶⁾。また、「心と体の関係について具体的な場面」を問う問題（日常生活の中で心と体に関連している場面を列挙する）通過率は46.6%と低く、心と体の密接な関係について具体例と関連付けて思考、判断する学習が不十分であることも報告されている⁷⁾。さらに、「体ほぐしの運動の目的を問う問題」の通過率は18.8%であり、体ほぐしの運動の目的の理解に課題があることが報告されている⁸⁾。この結果は心と体の関係についての低い学習状況を示す⁹⁾。体ほぐしの運動遊びを含めた体づくり運動領域の学習指導の充実を図るためにも、指導実態を明らかにすることが求められる。

これまでも体育科の指導実態の調査研究は蓄積さ

れている^{10) 11) 12) 13) 14)}。これらは実施時期が2017年告示指導要領前の実態を対象としている。現在、2017年告示後となる次期学習指導要領改訂に向けた様々な議論が始まり、今後加速化される。地球規模の環境問題（地球沸騰化、災害や戦争による環境破壊等も含む）や社会問題等を鑑み、我が国が抱える体育科の危機感を共有していく各議論では、児童の心と体の関連を学力とする体ほぐしの運動遊びの教育的意義や児童の健やかな体づくり等が問われることになる。異常気象の常態化と感染症の猛威への対応、生成AI等の開発の加速化、教員の働き方改革等、体ほぐしの運動遊びを含める体づくり運動領域における指導を取り巻く教育環境は激変している。その渦中にある調査研究は2件ある^{15) 16)}。しかし、体づくり運動領域の指導実態を明らかにする調査研究は非常に不足している。

そこで、本研究では、愛知県内の公立小学校教員の意識調査から、体づくり運動における指導実態に関する基礎的資料を得ることを目的とする。

II. 方法

1. 調査対象及び調査の手続き

対象者は愛知県内の公立小学校教員とした。本調査はMicrosoft Formsを活用して、2023年5月22日から8月17日までに実施した。調査の依頼においては、筆者が講師を務める愛知県内の各種教員研修会の主催者及び回答者に調査の目的及び内容、回答方法、個人情報保護等について詳しく説明をした。回答及び回収は、教員研修会後に実施した。回答及び回収数は203名であり、そのうち基本属性（性別・教員年数・研究会の所属の有無）に関するデータに不備のみたられた1名を除外し、不備のない202名のデータを分析対象

とした。調査項目は先行研究の質問紙¹⁷⁾を参考にした。

この調査は筆者が調べた先行研究の中で最も新しい調査研究であり、質問紙が研究者と教育学専攻の大学院及び体づくり運動領域を専門的に研究している研究会に所属する教員との合議のもと、教育現場の実情を踏まえて作成され、小学校教員との合議を繰り返し、より小学校教員が回答しやすい形式となること等を念頭に質問項目の修正・追加をされたものである。なお、質問紙の作成協力の教員の教職歴は、先行研究^{18) 19) 20)}を参考にした分類（初任期：1～3年，自立気：4～10年，中堅期：11～20年，ベテラン期：21年以上）であり全期から構成されているものである。

この質問項目に加えて、「指導しやすさ」の理由と「体づくり運動の領域の授業づくりの不明点や不安点」について自由記述を付加して、指導実態を明らかにするための資料に資するようにした。本研究では、この付加した自由記述を検討対象とした。なお、他の質問項目における調査結果はすでに公表している²¹⁾。

2. データ分析

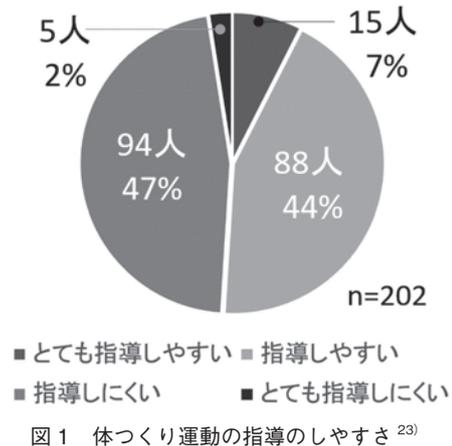
本研究では、「体づくり運動の指導のしやすさ」及び「体づくり運動領域の授業づくりの不明点や不安点」の自由記述の内容を検討対象とした。「体づくり運動の指導のしやすさ」については、「とても指導しやすい・指導しやすい・指導しにくい・とても指導しにくい」の中から当てはまるもの1つを選択する質問項目後に、「その理由を教えてください」の回答を求めた。「体づくり運動領域の授業づくりの不明点や不安点」については、「体づくり運動の領域の授業づくりについて、ご不明な点や不安な点を自由にお書きください」の回答を求めた。

各回答は、Microsoft Excelに入力された自由記述をテキストデータ化した。その際、明らかな誤字は修正（行こなう→行う）した。このテキストデータを対象として、KHCoder Ver.3.0を用いた計量テキスト分析を行った²²⁾。全体分析では形態素解析を実施した上で、KWICコンコーダンス及びコロケーション解析を行い、全体の傾向を分析した。また、より詳細な検討を行うために、抽出語を対象に、記述内の語句の出現頻度を把握するとともに、共起ネットワークを作成し、頻出語の関係性を描画した。共起ネットワーク図では、つながりの強い語同士のJaccard係数を算出し、上位60位までを図示した。さらに、対応分析により、差異が顕著な語を分析に使用し、上位60語までの特徴づける語を検討した。

Ⅲ. 結果

1. 体づくり運動領域の指導のしやすさについて

図1は「体づくり運動の指導のしやすさについて」



の調査結果である²³⁾。これは「体づくり運動の指導のしやすさについて、当てはまるもの1つに○をつけてください」の回答結果であった。「とても指導しやすい」と「指導しやすい」の合計は103人で全体の51%であった。一方、「指導しにくい」と「とても指導しにくい」の合計は99人で全体の49%である。「とても指導しやすい・指導しやすい」と「指導しにくい・とても指導しにくい」との割合は約半々であった。この結果は、東京都の調査²⁴⁾と同じ傾向といえる。

2. 体づくり運動領域における指導しやすい理由

「体づくり運動の指導のしやすさについて」の質問項目の中で「『特に指導しやすい』『指導しやすい』に○を付けた理由を教えてください」に関する自由記述データを形態素解析の結果、使用された述ベ語数（分析対象とした語の延べ数）は、1,456語、異なり語数（何種類の語が含まれるかを示す数）では338語が抽出された。自由記述に関して出現回数が10以上の語句について表1に示した。

自由記述に関して出現回数が上位の語句には「運動」、「子ども」、「楽しい」、「多い」、「楽しむ」、「動き」、「指導」などの記述が多く出現していた。1番目に頻出している「運動」の語句については、前後に用いられた関係語をKWICコンコーダンスおよびコロケーション解析を実施した結果、「ゲーム性があるものが多く、運動の苦手な子どもでも楽しめるものが多いから」、「各種の運動へつながる基礎的な技能を楽しみながら習得させる機会となるので」、「行う運動が思考を必要としないから」、「運動の特性を考えれば自由に指導できるから」などの意味で使用されていた。

表1 「体づくり運動領域における指導しやすい理由」の出現回数10以上の語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
運動	22	多い	15	指導	12
子ども	20	楽しむ	12	自由	11
楽しい	19	動き	12		

また、「体づくり運動領域における指導しやすい理由」についてより詳しく分析するために、図2の共起ネットワーク図を作成し、抽出語同士の関係性を示した。

共起ネットワーク図では、頻出語の結びつきを示している。図2では、頻出語が最も多い「運動」は「子」と「苦手」と結びつき、「子」と「苦手」と強く結びつき、「取り組める」と結びついている。「子ども」は「ゲーム」、「感覚」、「楽しむ」、「多い」と結びついている。また、「楽しむ」は「取り組む」「生徒」も結びついている。「楽しい」は「体」「教材」「授業」「考える」と結びつき、「体」と「動かす」は強く結びついている。「動き」は「取り入れる」「簡単」と結びついている。「指導」は「自由」「高い」と結びつき、「自由」と「高い」は強く結びつき、「高い」と「子供」が結びついている。「参考」と「資料」は強く結びつき、「資料」は「教材」と「感じる」に関連している。「参考」は「多い」と関連している。

さらに、「体づくり運動領域における指導しやすい理由」に関して、どのような特徴があるのかを分析するために、図3の対応分析を行った。

対応分析では「頻出語」の特徴について視覚的な探索が可能である。図3では、原点から最も離れている語句が特徴的である。本調査では「参考」が特徴的な語であった。その方向に向かって語は、「資料」と「合わせる」であった。また、「自由」も原点から離れている語句である。この方向に向かう語は「高い」「子供」「単元」であった。「参考」と「自由」の次に原点から離れている語としては「自分」がある。この方向には「体」、「楽しい」、「教材」の語があった。

3. 体づくり運動領域における指導しにくい理由

「体づくり運動の指導のしやすさ」の質問項目の中で『特に指導しにくい』『指導しにくい』に○を付けた理由を教えてくださいに関する自由記述データを

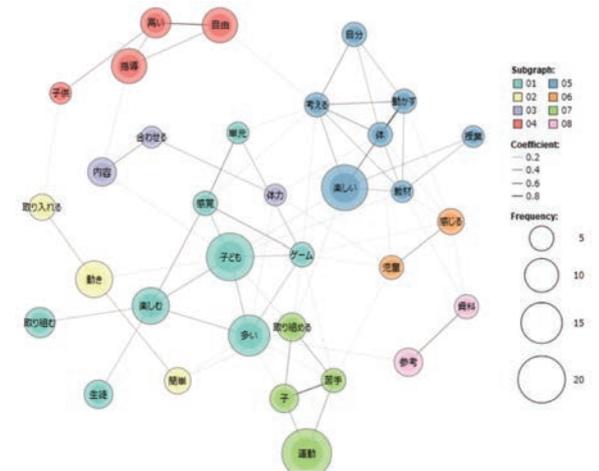


図2 「体づくり運動領域における指導しやすい理由」の共起ネットワーク図

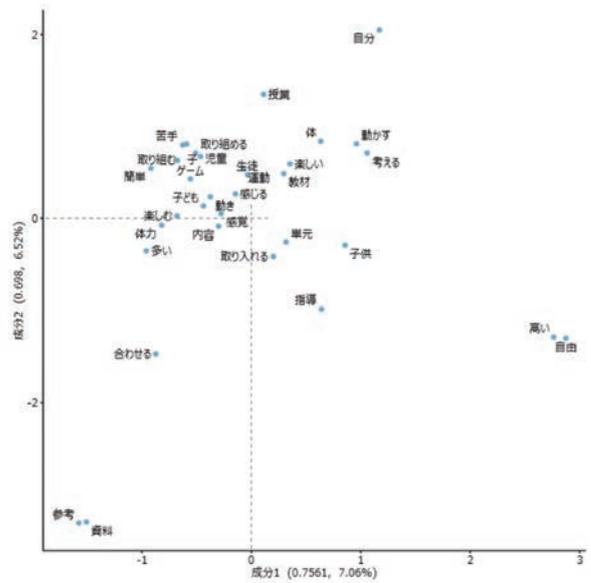


図3 「体づくり運動領域における指導しやすい理由」の対応分析

形態素解析の結果、使用された述べ語数（分析対象とした語の延べ数）は、1,590語、異なり語数（何種類の語が含まれるかを示す数）では356語が抽出された。自由記述に関して出現回数が10以上の語句について表2に示した。

自由記述に関して出現回数が高い語句には「運動」、「指導」、「授業」、「子ども」、「難しい」、「分かる」などの記述が多く出現していた。1番目に頻出している「運動」の語句については、前後に用いられた関係語をKWICコンコーダンスおよびコロケーション解析を実施した結果、「準備運動として体づくりをやってきましたが一つの授業としてうまく構成できない」「体ほぐしの運動のバリエーションをあまり知らない」「具体的な運動例の引き出しが少ない」「運動量が確保できず、児童のためになったか分からない」「何をしたらいいのかわかりせず、実践しても運動が苦手な児童からしたら、楽しくない時間だと感じるため」などの意味で使用されていた。

また、「体づくり運動領域における指導しにくさの理由」についてより詳しく分析するために、図4の共起ネットワーク図を作成し、抽出語同士の関係性を示した。

図4では、「運動」は「楽しい」「児童」と強く結び

表2 「体づくり運動領域における指導しにくい理由」の出現回数10以上の語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
運動	22	難しい	13	少ない	10
指導	14	分かる	12	体	10
授業	14	内容	11		
子ども	13	行う	10		

つき、さらに「楽しい」と「児童」は、「感じる」と「苦手」と結びついている。「指導」は「感じる」「行う」「少ない」と関連している。「難しい」の語は、「授業」「生徒」と結びつき、「授業」は「難しい」「生徒」「単元」「体育」と結びついている。また、「生徒」は「内容」「体育」と「単元」は「知識」とそれぞれ結びついている。「子ども」は、「自分」「少ない」と結びつき、「自分」と「少ない」は、「飽きる」「引き出し」と結びついている。

さらに、「体づくり運動の指導しにくい理由」に関して、どのような特徴があるのかを分析するために、図5の対応分析を行った。

図5では、原点から最も離れている「知識」が特徴的な語であった。その方向に向かっている語は、「単元」「体育」「苦手」であった。また、「合う」も原点から

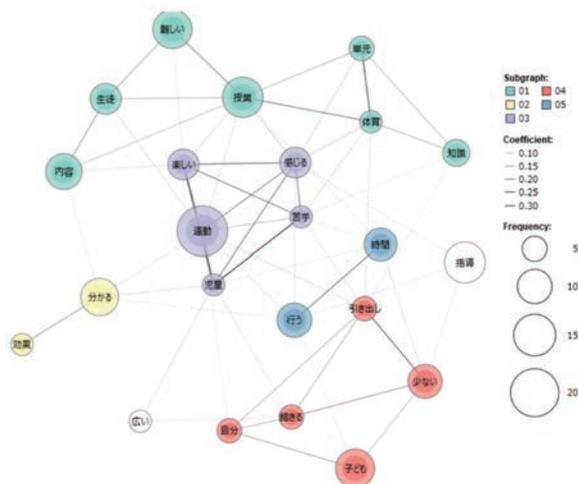


図4 「体づくり運動領域における指導しにくい理由」の共起ネットワーク図

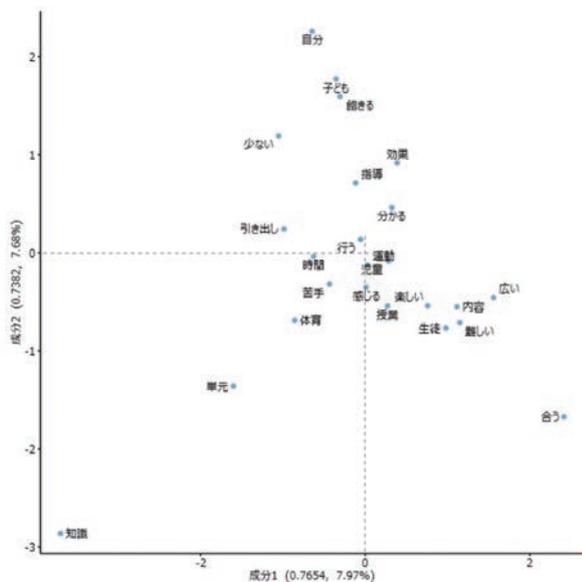


図5 「体づくり運動領域における指導しにくい理由」の対応分析

離れている語句である。この方向に向かう語は「難しい」「生徒」「児童」「楽しい」「運動」であった。次に原点から離れている語としては「自分」がある。この方向には「子ども」「飽きる」「指導」「行う」の語があった。

4. 体づくり運動領域の授業づくりの不明点や不安点

「体づくり運動の領域の授業づくりについて、ご不明な点や不安な点を自由にお書きください」に関する自由記述データを形態素解析の結果、使用された述ベ語数（分析対象とした語の延べ数）は、2,854語、異なり語数（何種類の語が含まれるかを示す数）では537語が抽出された。自由記述に関して出現回数が10以上の語句について表3に示した。

自由記述に関して出現回数が上位の語句には「運動」「体」「評価」「授業」「知る」などの記述が多く出現していた。1番目に頻出している「運動」の語句については、前後に用いられた関係語をKWICコンコーダンスおよびコロケーション解析を実施した結果、「1時間、ただ運動をして終わりになってしまう」「体ほぐしの運動遊びと多様な動きをつくる運動遊びとあるが、その違いが不明である」「体ほぐしの運動について知識が少ないことに不安がある」などの意味で使用されていた。

また、「体づくり運動領域の授業づくりの不明点や不安点」についてより詳しく分析するために、図6の共起ネットワーク図を作成し、抽出語同士の関係性を示した。

図6では、「運動」が「体」と「動き」と強く結びつき、その「動き」は、「多様」「遊び」「違い」の3つと強く結びつき、さらにこれら3つは「不明」に強く結びついている。「難しい」の語は、「行う」「感じる」「単元」などの一連の結びつきと関連している。「知る」は、「実践」「例」「欲しい」の一連の結びつきがある。「欲しい」は、「領域」の関連し、「領域」は「困る」「扱う」「他」「学習」「分かる」の一連の結びつきがある。また、「評価」は「仕方」と強く結びつき、独立して出現している。

さらに、「体づくり運動領域の授業づくりの不明点や不安点」に関して、どのような特徴があるのかを分析するために、図7の対応分析を行った。

図7では、対応分析は原点から最も離れている「児

表3 「体づくり運動領域の授業づくりの不明点や不安点」における出現回数10以上の語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
運動	64	動き	18	遊び	12
体	38	単元	15	教える	11
評価	36	難しい	15	実践	11
授業	24	例	14	思う	10
知る	23	指導	13		

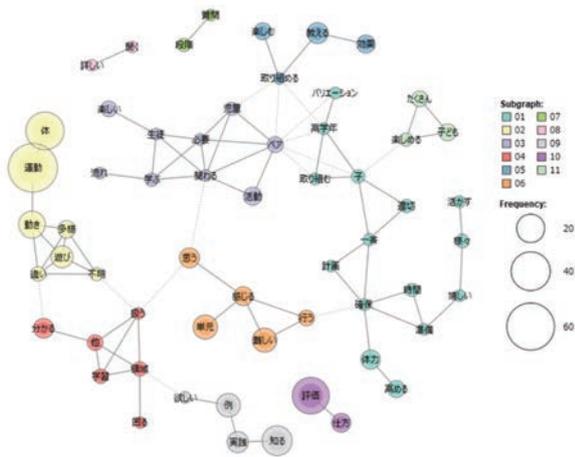


図6 「体づくり運動領域の授業づくりの不明点や不安点」の共起ネットワーク図

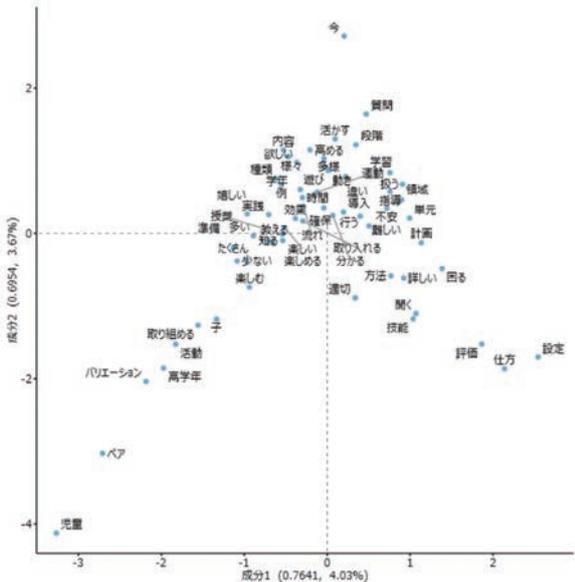


図7 「体づくり運動領域の授業づくりの不明点や不安点」の対応分析

童」が特徴的な語であった。その方向に向かっている語は、「ペア」「バリエーション」「高学年」「活動」「取り組める」「子」「楽しむ」であった。また、「設定」も原点から離れている語句である。この方向に向かう語は「評価」「技能」であった。「児童」と「設定」の次に原点から離れている語としては「今」がある。この方向には「活かす」「高める」「多様」「時間」の語があった。

IV. 考察

1. 体づくり運動領域における指導しやすい理由

「体づくり運動領域における指導しやすい理由」における特徴的な語は「参考」「自由」「自分」であった。「参考」の方向に向かっている語は、「資料」と「合

わせる」であった。その「資料」は「教材」と「感じる」に関連して、「参考」は「多い」と関連している。

「自由」の方向に向かう語は「高い」「子供」「単元」であった。その「子供」は、「指導」「自由」「高い」と関連している。「単元」は「難しい」「行う」「感じる」の一連の結びつきと関連している。

「自分」の方向に向かう語は「体」「楽しい」「教材」であった。「楽しい」は「体」「教材」「授業」「考える」と結びつき、「体」と「動かす」は強く結びついている。

これらのことから、「指導しやすい理由」には、「参考資料となる教材が多いと感じていること」、「その教材は体を動かすと楽しい授業であると教師自身(自分)が考えること」、「運動が苦手な子(子供)が取り組めるような単元を行うことが難しいと感じるが、子供への指導の自由度が高いこと」が考えられる。

「運動が苦手な子(子供)が取り組めるような単元を行うと難しいと感じること」があったとしても、「参考資料となる教材」を授業の中に持ち込み、「その教材は体を動かすと楽しい授業であると教師自身(自分)が考えること」をもって指導しやすいとすることは問題はないだろうか。「指導しやすい理由」が教材や単元に向けられているが、「子供への指導の自由度が高いこと」は、学習内容(子供が何を学ぶのか)ではなく、指導方法(教師がどのように教えるのか)を指す。指導方法の自由度が高いことは子供の学習状況に応じることができる。しかし、学習内容の自由度が高いことは体づくり運動領域固有の内容を学ぶ共通性の確保の観点から外れていくこととなりかねない。体づくり運動領域固有の学習内容への関心まで及ばず、指導方法として指導しやすいということであれば、活動あって学びなしの授業へ傾斜してしまう。

2. 体づくり運動領域における指導しにくい理由

「体づくり運動領域における指導しにくい理由」における特徴的な語は特徴的な語は、「知識」「合う」「自分」であった。

「知識」の方向に向かっている語は、「単元」「体育」「苦手」であった。この一連の語は「難しい」と結びついている。「難しい」の語は、「授業」と「生徒」と結びつき、「授業」は「難しい」「生徒」「単元」「体育」と結びついている。また、「生徒」は「内容」「体育」と「単元」は「知識」とそれぞれ結びついている。

「合う」の方向に向かう語は「難しい」「生徒」「児童」「楽しい」「運動」であった。この頻出語が最も高い「運動」は「楽しい」と「児童」と強く結びつき、さらに「楽しい」は「感じる」。「児童」は「苦手」と結びついている。

「自分」の方向に向かう語は「子ども」「飽きる」「指導」「行う」の語があった。「子ども」は、「自分」「少

ない」と結びつき、「自分」と「少ない」は、「飽きる」「引き出し」と結びついている。

これらのことから、「指導しにくい理由」には、「教師自身（自分）は子どもが飽きる指導を行うことを感じる」とある。そのため、「運動が苦手な児童（生徒）が楽しいと感じる体育の単元の知識」や「児童（生徒）に合う楽しい運動（引き出し）」を求めていると考える。

「運動が苦手な児童（生徒）が楽しいと感じる体育の単元の知識」は、「児童（生徒）に合う楽しい運動（引き出し）」で、子供が何を学ぶのかを求めているため、体づくり運動領域固有の学びに関心が向けられていると考える。体づくり運動領域、とりわけ体ほぐしの運動は、社会的要請から生まれた教育的課題に緊急対処する必要性から十分な実践の積み重ねがないままに導入された²⁵⁾。体づくり運動領域の誕生からの実践例の蓄積だけではなく、「児童（生徒）に合う楽しい運動」となりうる教材の効果を検討するとともに、その開発と効果を明らかにする研究が求められている。

3. 体づくり運動領域の授業づくりの不明点や不安点

体づくり運動領域の授業づくりの不明点や不安点については、「児童」が特徴的な語であり、その方向に向かっている語が「ペア」「バリエーション」「高学年」「活動」「取り組める」「子」「楽しむ」であった。また、「今」も特徴的な語であり、この方向に向かう語が「活かす」「高める」「多様」「時間」であった。これらのことから、「高学年の子どもたち（児童・子）が取り組めるようなペア活動やそのバリエーション」や「いかに活かすか、いかに高めるかといった多様な時間」に不明点や不安点があると考えられる。さらに、「設定」も特徴的な語であり、この方向に向かう語が「評価」「技能」であった。これらのことから、「技能の評価の設定が不明となっていること」と考える。

こうした不明点や不安点の源流はどこにあるのだろうか。体づくりの運動領域の指導内容は、「技能」ではなく「運動」である。平成29年告示指導要領では、体育科の他領域が「知識及び技能」であるが、体づくり運動領域だけは「知識及び運動」である。さらに、体づくり運動領域については、「体ほぐしの運動（遊び）」は、心と体の変化や心と体との関係に気付いたり、みんなで関わり合ったりすることが主なねらいであり、「多様な動きをつくる運動（遊び）」及び「体の動きを高める運動」は、体の様々な動きを身に付けたり高めたりすることが主なねらいであり、それぞれが特定の技能を示すものではないことから、従前どおり「技能」ではなく「運動」として示している²⁶⁾。そのため、体ほぐしの運動（遊び）は技能評価が設定されていない。そもそも設定されていない技能を評価対象にしようとしていることが、体づくり運動領域の不明点や不

安点に陥ることになっていると考える。さらに深刻なことは、「指導しやすい理由」が、最も多い頻出語の「運動」の語句として「各種の運動へつながる基礎的な技能を楽しみながら習得させる機会となるので」と指導しやすいとの意味で使用されていることである。ここにも、体づくり運動領域の教材化は、どのように学ぶのかだけではなく、むしろ子供が何を学んでいるのかという学びの過程への関心が支えとなる。

さらに、「教材化の軽視」²⁷⁾についても言及しておきたい。これは、誰かによって「教材化された教材」をそのまま借用し使用していることを示すものであり、体育実践を低調させる重要な一因ともなっている²⁷⁾。その問題点は、教師と子どもたちが協力して教材化という作業に取り組むことによって、その過程で極めて多様な重要な内容を指導することができ、また一人ひとりの子どもが学習課題をはっきりと自覚した学習活動を展開できるはずでもあるにもかかわらず、それが見逃されるということである²⁸⁾。

先の考察にある「指導しやすさの理由」が、「教材化された教材」を授業に持ち込むことが単純に簡易化・簡便化であるとすれば、体づくり運動領域の授業づくりの低調を招く。さらなる深刻さも「指導しやすい理由」にある。それは、最も多い頻出語の「運動」の語句として「行う運動が思考を必要としないから」指導しやすいとの意味で使用されていることである。体づくり運動領域においても、運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う「思考力・判断力・表現力等」の目標がある²⁹⁾。その目標そのものが設定されない授業は、体づくり運動領域の授業として成立しない。

一方で、「指導しにくい理由」は「教材化された教材」を持ち込むことによって生じている問題点を浮き彫りにしていくことができると考える。教材化の背景には必ず子どもたちの実態についての何らかの分析的な把握があり、このような実態把握を欠落させた教材化の「結果」だけの転用は避けるべきであり、このような実態把握とその分析、総合には子どもたちも参加させるべきであり、これが教材化することそれ自身を《教材》とさせるのである³⁰⁾。こうした「教材」の概念とその具体の提示に至るには、先行研究における体づくり運動領域の「教材」の概念を整理するとともに、その具体的な「教材」の開発と効果について検討していきたい。今後の課題とする。

謝辞

本研究にご協力くださった各市町教育委員会の皆様、小学校の先生方に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

引用・参考文献

- 1) 文部省 (1998) 小学校学習指導要領, ぎょうせい.
- 2) 文部科学省 (2008) 小学校学習指導要領解説体育編, 東洋館出版社.
- 3) 文部科学省 (2018) 小学校学習指導要領解説体育編, 東洋館出版社.
- 4) 川口啓 (2003) “心と体の関連型運動遊び”としての「体ほぐしの運動」の特性に関する一考察, 日本教科教育学会誌26 (3), pp.23-32.
- 5) 長野康平・篠原俊明・中村和彦 (2021) 小学校教員の体づくり運動領域における指導実態と意識: 所属研究部と教職歴による検討, スポーツ教育学研究41 (2), pp.49-66.
- 6) 国立教育政策研究所 (2018) 平成24・25年度小学校学習指導要領実施状況調査報告書 結果のポイント及び教科等別分析と改善点, pp.小保3-小保4.
- 7) 上掲書6) p.小保4
- 8) 前掲書6) p.小運3.
- 9) 山田浩平・鈴木一成 (2023) 小中学校体育教授資料保健と体育を融合させた授業の展開小学校第5学年保健領域「心の健康」と運動領域「体づくり運動」との関わり, 大日本図書.
- 10) 池田延行・田原淳子 (2011) 小学校の「体づくり運動」に関する研究, 国士館大学体育研究所報第30巻, pp.77-82.
- 11) 深谷秀次・早川健太郎・渡部琢也 (2016) 小学校における「体づくり運動」の状況-教員の意識調査を通して-, 子ども学研究論集第8号, 名古屋経営短期大学子ども学科子育て環境支援研究センター, pp.5-20.
- 12) 高田康史・筒井愛知 (2017) 岡山県小学校における体づくり運動の実施に関する一考察, 吉備国際大学研究紀要 (人文・社会科学系) 27, pp.177-188.
- 13) 檜皮貴子 (2018) 体づくり運動の実施状況調査と現場での活用を目指した運動教材の検討-新潟県中越地区の体育主任を対象に-, 新潟大学教育学部研究紀要人文・社会科学編11 (2), pp.209-215.
- 14) 前掲書5).
- 15) 鈴木一成 (2023) 体育科における「学び直し」の指導についての検討-愛知県内の公立小学校教員の意識調査より-, 愛知教育大学研究報告72, pp.46-51.
- 16) 鈴木一成 (2023) 愛知県内における体づくり運動の指導実態に関する調査, 第14回教科開発学研究会発表論文集, 愛知教育大学大学院・静岡大学大学院教育学研究科共同教科開発学専攻, pp.11-17.
- 17) 前掲書5)
- 18) 木原俊行 (2004) 授業研究と教師の成長, 日本文教出版, pp.7-17.
- 19) 松田恵示 (2010) 免許更新制と現職教員の力量, 体育科教育学研究26 (2), pp.60-66.
- 20) 白旗和也 (2013) 小学校教員の体育科学習指導と行政作成資料の活用に関する研究, スポーツ教育学研究32 (2), pp.59-72.
- 21) 前掲書16).
- 22) 樋口耕一 (2020) 『社会調査のための計量テキスト分析 (第2版) 内容分析の継承と発展を目指して』, ナカニシ出版.
- 23) 前掲書16) p.14.
- 24) 前掲書5)
- 25) 村田芳子, 「体ほぐしの運動」の単元づくりはどうあるべきか, 体育科教育49 (5), 大修館書店, 2001, pp.20-23.
- 26) 前掲書3) pp.26-27.
- 27) 中村敏雄 (1989) 教師のための体育教材論, 創文企画, pp.27.
- 28) 上掲書27) p.28.
- 29) 前掲書3) pp.17-18.
- 30) 前掲書27) pp.31.

(2023年9月25日受理)